

疾患別説明書：慢性硬膜下血腫 (CSDH-51)

船橋市立医療センター脳神経外科（平成 14 年 6 月 1 日作成）

1、慢性硬膜下血腫（Chronic Subdural Hematoma）とは

慢性硬膜下血腫とは、数週間から数ヶ月かかって硬膜という膜の下に血液がたまっているものである。血腫は被膜によりおおわれており、被膜から持続的または断続的に出血が生じている。慢性硬膜下血腫は片側に生じることが多いが、約 10%は両側性である。

1) 原因

- ☐ 外傷性：比較的軽微な外傷が原因となる。外傷性硬膜下血腫から移行、急性硬膜下血腫から移行
- ☐ 特発性（約 20～30%）：脳萎縮、飲酒歴、肝機能障害、抗血小板剤・抗凝固剤使用中、血液透析、癌の硬膜転移、低髄液圧症候群、髄液短絡術（シャント手術）後、原因不明など

2) 症状（外傷性の場合には受傷から数週間～数ヶ月）

- ☐ 頭蓋内圧亢進症状：頭痛、頭重感、嘔気、嘔吐
- ☐ 変動する意識障害、知能障害：意識レベルの低下、記名力低下、性格変化、尿失禁
- ☐ 巣症状：歩行障害、片麻痺、言語障害

3) 発生頻度：男性に多い

- ☐ 男性：10 万人につき 1～10 人、70 歳以上では 16 人
- ☐ 女性：10 万人につき 0.7～2 人、70 歳以上では 4～8 人

2、画像診断

CT, MRI で脳表に三日月型または両凸レンズ型の血腫

3、治療

- 1) 自然吸収される例もまれにある（無症状、小さな血腫）。症状がある場合、手術を行わなければ、脳への圧迫が強くなり意識障害をきたし死亡することがある。症状がある場合は外科的治療＝手術（成人では穿頭血腫除去術）が一般的である。乳幼児の場合は、硬膜下穿刺、硬膜下腔腹腔シャントを行うことがある。
- 2) 手術合併症：けいれん発作、緊張性気脳症、急性の頭蓋内血腫、創部からの感染などが生じることがまれにある。
- 3) 手術後の後遺症：手術により症状は軽快することが多い。脳の回復が悪いことがあ

る。意識障害、視神経障害、眼球運動障害、四肢の麻痺などが残ることがまれにある。

- 4) 手術を行った場合の死亡率：1～2%
- 5) 手術後の再発率：約10～20%

4、手術方法（穿頭血腫除去術）

頭蓋骨に1～2個の穴をあけ、そこから血腫内容液を除去する。被膜からの出血を止める処置はしない。血腫腔にドレーンを留置する。ドレーンは数日後に抜去する。抜糸は7～10日。被膜からの出血に対しては、脳が回復し自然に止血されるまで待機する。

